

東区 E 産探求プロジェクト

「臨港貨物線コース」参加レポート

新潟デザイン専門学校 グラフィックデザイン科 2年 土田雛凜

11月23日に開催された「東区 E 産探求プロジェクト まち歩き 臨港貨物線コース」に学生記者としてご一緒させていただきました。

東区の魅力を自分の目で見てもっと知ろうと思ったのが今回このプロジェクトに参加しようと思った理由です。

工場への専用線を持つ焼島駅

バスで移動し、最初の目的地である焼島駅へ。

その日は、曇り時々雨といった暗めの天候でしたが、そんな悪天候にも負けないぐらい丁寧な説明に参加者の皆さんは真剣に耳をかたむけて聞いていました。工場に囲まれた場所で、過去に原料や化学薬品、製品の発着といった産業のまち発展に大きく関わっているととても大きな役割を持っている駅でした。現在は、トラックドライバー不足問題があり、貨物列車の需要が見直されて少し前よりも利用する機会が増えたそうです。焼島駅の役割を聞いて、昔の新潟の姿が見えた感覚になりました。また、自分が知らない新潟が知れて嬉しい気持ちとなり過去の輸送事情についても勉強になりました。



相撲とりより重い焼島地蔵尊

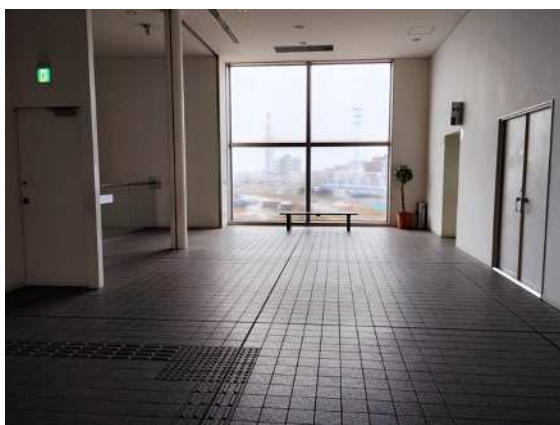
今回は雨が酷く外で直接見学できる天候ではなかったため、バスの中で焼島地蔵尊のお話を聞きました。今は工場地帯ですが昔は焼島瀉という瀉があって、天候が荒れると水難事故が起きることが多々あったそうです。そのため亡くなった人々を追悼するために祀られました。かなり大きいサイズなので、どうやって持ってきたのか今でも謎に包まれています。車を停めることができるらしいので、今度天気がいい日に改めて直接見に行きたいです。

民間が運営する港、臨港埠頭

臨港埠頭は日本で唯一、民間が管理している港です。普段は入れない私有地に今回は特別に入れてもらいお話を聞かせていただきました。その日は、中国から来た船が天候の影響で停泊していました。今はもうありませんが昔は線路がたくさん敷かれていて、専用の線路で工場まで繋がっていて1970年代の高度経済成長を支えました。身近にあった小さな港は、県外だけでなく海外とも交流があったことを初めて知ることができました。貨物の輸送について知ることによって、違う視点から社会を見ることができ一つの社会勉強になりました。

景色を一望できる山の下みなとタワー

山の下みなとタワーの展望室からは日本海と臨港埠頭を一望することができます。建物自体はとても静かで過ごしやすくボーッとしたい時に来たいと思いました。一階の階段を降りるとみなとトンネルに繋がっているため、散歩がてら山の下みなとタワーに訪れていて休憩するのももちろんいい建物だと感じました。曇りの日に行くと、晴れの日とはまた違った無機質で不思議な雰囲気味わうことができます。



休線中の東新潟港駅

現在は休線になっている東新潟港駅を訪れました。今回、特別な許可を得て線路の上を歩いて駅の中を見学させていただきました。東新潟港駅も焼島駅と同じように各工場への専用線が引かれていました。新潟港の近くまで線路が敷かれていたため、外国船とも関わりが盛んだったそうです。駅内は昔ながらの物がたくさん置いてあり、中には自分が知らない物もありました。昔の駅で使われていた備品などを間近で直接見ることができる機会は滅多にないので、今回自分の知らない時代を物から感じる事ができてとても貴重な経験になりました。



今回の東区 E 産探求プロジェクトを通して

今回このプロジェクトに参加して、自分が知らなかった現在と過去の新潟の姿を見ることができました。高度経済成長を支えたのは関東の方だと勝手に思い込んでいたので、新潟も高度経済成長を支えた一部になっていたことを初めて知りました。自分の地元や他の県の過去の頑張りがあって今が存在していると改めて感じました。子供の頃から見ている場所も今見ると感じ方が全く違い、地元の景色に対する考え方を見直すことができるとても素晴らしいプロジェクトでした。この企画に参加できたことをとても嬉しく思っています。この経験を踏まえて、自身が考える地元への将来展望をより具体的にし、何らかの形で地元の活性化に繋げていくことができればいいなと思いました。また地元を焦点を当てたプロジェクトがありましたら、ぜひ参加させていただきたいです。ここまで読んでくださりありがとうございました。